

「実務経験のある教員等による授業科目」一覧表

令和5年5月1日

北都保健福祉専門学校 看護学科

科目名	学年	単位数	担当する教員の実務経験	教員氏名
基礎看護学概論	1	1	看護師として臨床経験5年以上	鳴海繭花
臨床看護総論	1	1	看護師として臨床経験5年以上	鳴海繭花 三上あすか 畑中亜希美 三上美紀
基礎看護学方法論Ⅶ	1	1	看護師として臨床経験5年以上	三上美紀
成人看護学概論Ⅰ	1	1	看護師として臨床経験5年以上	矢野優子
老年看護学概論	1	1	看護師として臨床経験5年以上	細川とき子
基礎看護学方法論Ⅸ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	三上あすか 谷 真弓
地域・在宅看護方法論Ⅱ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	谷 真弓
成人看護学方法論Ⅰ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	畑中亜希美
老年看護学方法論Ⅰ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	細川とき子
小児看護学方法論Ⅰ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	福原 緑
精神看護学方法論Ⅱ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	坂井聖康 鳴海繭花 三上あすか
診療の補助技術における安全	3	1	看護師として臨床経験5年以上	宗像祐二
	計	12		

科目名	基礎看護学概論		
担当教員	鳴海繭花		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	前期	1	30
履修目的・授業概要☑ 各看護学の基礎となる、看護の概念を学び、目的・役割・機能を理解する。また、看護実践の基盤となる、倫理および看護職の活動の広がりを学ぶ			
到達目標☑ 1.看護の定義および理論を知り、看護の概念を理解する 2.看護の対象である人間を理解し、「健康」「環境」「暮らし」について学ぶ。 3.看護の役割と機能を学び、看護と社会のつながりを理解する。			
授業の形式・方法☑ 講義・演習			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ 看護とは何か？みなさんと一緒に考えていきたいと思えます。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[1] 看護学概論	茂野 香おる	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	看護とは ガイダンス・看護の変遷	鳴海
2	看護とは 看護の定義	鳴海
3	看護とは 看護の役割と機能	鳴海
4	看護の対象の理解 人間の「こころ」と「からだ」	鳴海
5	看護の対象の理解 発達し続ける存在としての人間の理解	鳴海
6	看護の対象の理解 人間の「暮らし」の理解／家族・集団・地域	鳴海
7	看護の対象の理解 グループワーク	鳴海
8	国民の健康状態と生活 健康の捉え方	鳴海
9	国民の健康状態と生活 国民の健康状態・ライフサイクル	鳴海
10	看護の提供者 職業としての看護 看護職の資格・養成制度	鳴海
11	看護における倫理	鳴海
12	看護の提供のしくみ チーム医療／サービス提供の場	鳴海
13	看護の提供のしくみ 看護制度・政策・看護管理・医療安全	鳴海
14	広がる看護の活動領域 国際化と看護／災害時における看護	鳴海
15	履修認定	鳴海

科目名	臨床看護総論		
担当教員	鳴海繭花 三上あすか 畑中亜希美 三上美紀		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	後期	1	30
履修目的・授業概要☑ 臨床看護の場で生じている現象は、様々な概念や理論を示す現象・状況が組み合わさっており、複合的である。「健康」「ニーズ」および「あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会」という概念に注目し、それらの関連から臨床看護を理解する。			
到達目標 多様な健康上のニーズをもつあらゆる発達段階の人々に、基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを理解することができる。			
授業の形式・方法☑ 講義、演習、映像視聴			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ 初めての看護実践に対峙する学生のみなさんにとって、看護の対象を理解し、看護学を基盤とした根拠に基づいた看護実践の参考にしてほしいと思います。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論	香春 知永	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	対象者と家族の健康上のニーズと看護 健康状態の経過に基づく看護(1)	鳴海
2	健康状態の経過に基づく看護(2)	鳴海
3	主要な症状を示す対象者への看護(1)	三上 あ
4	主要な症状を示す対象者への看護(2)	三上 あ
5	主要な症状を示す対象者への看護(3)	三上 あ
6	主要な症状を示す対象者への看護(4)	三上 あ
7	主要な症状を示す対象者への看護(5)	三上 あ
8	主要な症状を示す対象者への看護(6)	三上 あ
9	治療・処置を受ける対象者への看護(1)	畑中
10	治療・処置を受ける対象者への看護(2)	畑中
11	治療・処置を受ける対象者への看護(3) 救急救命処置 止血法	畑中
12	事例による看護実践の展開(1)	三上 美
13	事例による看護実践の展開(2)	三上 美
14	事例による看護実践の展開(3)	三上 美
15	履修認定	鳴海 畑中 三上美 あ

科目名	基礎看護学方法論Ⅶ		
担当教員	三上 美紀		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	後期	1	30
履修目的・授業概要☒			
清潔の意義を理解し、各清潔援助の援助方法を習得する。 衣服を身につけることの意義を理解し、寝衣の交換方法を習得する。			
到達目標☒			
1.清潔の意義、留意点を理解する。 2.清潔の基本的な援助を実施することができる。 3.衣服を身につけることの意義、寝衣交換の留意点を理解する。 4.基本的な寝衣交換と制限のある方にたいする寝衣交換を実施することができる。			
授業の形式・方法☒			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（70%）技術試験（30%）			
学生へのメッセージ			
人にとっての清潔行動の意味をとらえ、看護の対象にとって安全で安楽な援助を実践するための知識・技術・態度を学びましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	任 和子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	清潔の援助の基礎知識	三上
2	衣生活の援助 援助の基礎知識と実際	三上
3	2.清潔援助の実際 ①入浴・シャワー浴 援助の基礎知識と実際	三上
4	②-1全身清拭 援助の基礎知識	三上
5	②-2全身清拭 援助の実際	三上
6	②-3全身清拭 援助の実際	三上
7	③-1洗髪 援助の基礎知識	三上
8	③-洗髪 援助の実際	三上
9	④手浴 援助の基礎知識と実際	三上
10	⑤足浴とフットケア 援助の基礎知識と実際	三上
11	⑥-1陰部洗浄 援助の基礎知識	三上
12	⑥-2陰部洗浄 援助の実際	三上
13	⑦整容	三上
14	⑧口腔ケア	三上
15	筆記試験 技術試験	三上

科目名	老年看護学概論		
担当教員	細川 とき子		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	後期	1	30
履修目的・授業概要☑			
<p>高齢者の特性をさまざまな側面から理解する。 高齢者の健康について学ぶ。高齢者疑似体験等を実施しながら、高齢者への理解を深めます。</p>			
到達目標☑			
<p>超高齢社会の様相、高齢者の倫理的課題を理解する。 老年看護の役割を理解する。 高齢者の身体・心理・社会的側面の加齢変化を理解する。 高齢者に対するヘルスアセスメントの方法を理解する。</p>			
授業の形式・方法☑			
講義 演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（80％）レポート（20％）			
学生へのメッセージ			
<p>高齢者疑似体験を授業の中で行います。 高齢者の時代・生活背景から高齢者を理解する目的でレポートを作成します。 講義・演習の順が変わることがあります。</p>			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
老年看護学	北川公子	医学書院	
老年看護学病態・疾患論	鳥羽研二	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	老いるということ、老いを生きるということ	細川
2	超高齢社会と社会保障	細川
3	超高齢社会における老年看護への期待	細川
4	老年看護のなりたち	細川
5	高齢者の生理的特徴（1） 老化とは 老化と寿命 認知・知覚機能	細川
6	高齢者の生理的特徴（2） 呼吸・循環機能 消化・吸収・代謝 排泄機能	細川
7	高齢者の生理的特徴（3） 免疫機能 運動機能 性機能	細川
8	高齢者の生理的特徴（4） 高齢者疑似体験	細川
9	高齢者の生理的特徴（5） 高齢者疑似体験	細川
10	老年症候群（1） 老年症候群の特徴 急性疾患に付随する症候	細川
11	老年症候群（2） 慢性疾患に付随する症候 ADL低下に合併する症候 フレイル	細川
12	高齢者のヘルスアセスメント	細川
13	高齢者健康機能の把握と総合機能評価（1） 高齢者のフィジカルアセスメント	細川
14	高齢者健康機能の把握と総合機能評価（2） バイタルサイン測定・身体測定 栄養評価 検査	細川
15	履修認定	細川

科目名	基礎看護学方法論Ⅸ		
担当教員	三上あすか 谷 真弓		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2	前期	1	30
履修目的・授業概要☑			
検査を受ける患者の苦痛を理解し、安全・安楽な援助技術を学ぶ 薬物療法に関する基礎知識を学ぶ。さらに、薬物療法時の看護について理解し、その役割について学ぶ			
到達目標☑			
1.血液検査、尿・便検査、喀痰検査を理解し、それぞれの検査時の看護を理解する 2.生体情報のモニタリングの意義と看護の実際を理解する 3.与薬に関する基礎知識を理解し、正しい与薬、薬剤の管理方法を理解する 4.薬物投与方法の特徴を理解し、援助の実際を理解する 5.輸血管理の基礎知識を理解し、援助の実際を理解する			
授業の形式・方法☑			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
演習では医療器具を使用します。 身だしなみと整え、安全に留意し演習に臨むようにしてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	任 和子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	検体検査 ①血液検査（静脈血採血）	三上あ
2	検体検査 ②血液検査（動脈血採血、血糖測定） ③尿・便・喀痰検査	三上あ
3	生体情報のモニタリング ①心電図モニター ②Spo2モニター ③血管留置カテーテルモニター	三上あ
4	症状・生体機能管理技術 心電図モニター・採血（技術演習）	三上あ
5	与薬 ①与薬の基礎知識 ②経口与薬・口腔内与薬 ③吸入	谷
6	与薬 ③点眼 ④点鼻 ⑤経皮的与薬 ⑥直腸与薬	谷
7	注射 ①注射の基礎知識 ②注射の準備	谷
8	注射 ①注射の実施方法（皮下注射・皮内注射・筋肉内注射）	谷
9	注射 ②注射の実施方法（静脈内注射・点滴静脈内注射）	谷
10	注射 ③注射の実施方法（点滴静脈内注射・中心静脈内カテーテルの管理）	谷
11	注射 ④注射の実施方法（輸液速度・輸液ポンプ・シリンジポンプ・点滴静脈内注射による混注）	谷
12	輸血管理 ①輸血管理の基礎知識 ②輸血管理の実際	谷
13	与薬 座薬・点滴静脈内注射（技術演習）	谷
14	与薬 筋肉内注射・皮下注射（技術演習）	谷
15	履修認定	三上あ 谷

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅱ		
担当教員	谷 真弓		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	後期	1	15
履修目的・授業概要☒			
<p>住み慣れた地域で療養生活を行う上で、療養者が必要な社会資源にはどのようなものがあるのかを再確認し、実際の訪問看護がどのように行われているかを学習していきます。</p>			
到達目標☒			
<p>1. 地域で暮らす療養者とその家族について理解できる 2. 地域・在宅看護に関わる制度が理解できる 3. 地域で暮らす様々な人々に関わる制度が理解できる</p>			
授業の形式・方法☒			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100%） * 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<p>障害や疾病を抱えている方が居宅で暮らしを送る際、病院とは異なり万全とはいえない環境下におかれる場合が多く、災害や様々なリスクを抱えながら過ごされているのが現状です。このような方々が住み慣れた地域で穏やかに暮らしていくには、様々な法律や社会資源制度がなどの生活を支える制度が関わっています。自分がその場にいたらどうしたらいいだろうとイメージしながら講義に臨んでみてください。</p>			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤	河原加代子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	地域・在宅看護の対象 (1)地域・在宅看護の対象者 (2)家族の理解 (3)地域に暮らす対象者の理解と看護	谷
2	地域における暮らしを支える看護① (1)暮らしを支える地域・在宅看護 (2)暮らしの環境を整える看護 (3)広がる看護の対象と提供方法	谷
3	地域における暮らしを支える看護② (1)地域における家族への看護 (2)地域におけるライフステージに応じた看護	谷
4	地域における暮らしを支える看護③ (1)地域での暮らしにおけるリスクの理解 (2)地域での暮らしにおける災害対策	谷
5	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用① (1)介護保険・医療保険制度 (2)地域・在宅看護に関わる医療提供体制	谷
6	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用② (1)訪問看護の制度 (2)地域保健に関わる法制度 (3)高齢者に関する法制度	谷
7	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用③ (1)障害者・難病に関わる法制度 (2)公費負担医療に関する法制度 (3)権利保障に関連する制度	谷
8	履修認定	谷
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	成人看護学方法論Ⅰ		
担当教員	畑中 亜希美		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要☑			
生命の危機状況および周手術期にある対象と家族を理解し、手術侵襲や危機的状況からの回復に必要な看護を学ぶ			
到達目標☑			
1. 急性期状況及び周手術期の特徴を理解する。 2. 急性期状況及び周手術期の対象と家族への看護を理解する。 3. 生命危機にある対象の看護を理解する。 4. 事例をもとに周手術期にある対象の看護過程の展開を学ぶ			
授業の形式・方法☑			
講義・演習・VTR			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（70％）レポート（30％） * 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
身体侵襲理論など既習内容を想起し、生命の危機状態にある対象への看護の理解を深めてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護学総論	小松 浩子	医学書院	
系統看護学講座 別巻 家族看護学	上別府 圭子	医学書院	
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論	矢永 勝彦(編)	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	健康生活の急激な破綻 生命の危機的状況	畑中
2	急性期にある対象が受ける医療と、対象の特徴	畑中
3	急性期にある対象の看護	畑中
4	急性の循環機能障害のある患者の看護の実際 事例:心筋梗塞	畑中
5	周術期にある対象の理解と受ける医療 手術侵襲と生体反応	畑中
6	周術期の看護① 手術前患者の看護	畑中
7	周術期の看護② 手術中患者の看護、手術後患者の看護	畑中
8	周術期の看護③ 手術後患者の看護、家族看護	畑中
9	周術期の看護の実際 演習 術後ベッドの準備、モニタリング、入室時看護	畑中
10	周手術期にある対象の事例展開 事例:胃がん	畑中
11	(1)アセスメント	畑中
12	(2)アセスメントに基づいた問題の明確化 (3)看護計画の立案 (4)実施・評価	畑中
13		畑中
14		畑中
15	履修認定	畑中

科目名	老年看護学方法論Ⅰ		
担当教員	細川 とき子		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2	前期	1	30
履修目的・授業概要☑ 高齢者が生活を円滑に進めるための援助ができる。高齢者のリスクマネジメントの概要について理解する。			
到達目標☑ 高齢者の日常生活動作の援助や支援を行うことができる。様々な場の特徴をふまえた看護の概要が理解できる。高齢者の医療安全・救命救急・災害の概要が理解できる。			
授業の形式・方法☑ 講義 演習			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100%）			
学生へのメッセージ 高齢者に対する日常生活援助について、講義で学習したあと演習にて学んでいきます。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
老年看護学	北川公子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	高齢者の生活機能を整える看護（1） 日常生活を支える基本的活動	細川
2	高齢者の生活機能を整える看護（2） 起居動作 移乗 移動 ポジショニング	細川
3	高齢者の生活機能を整える看護（3） 食事・食生活	細川
4	高齢者の生活機能を整える看護（4） 食事・食生活演習	細川
5	高齢者の生活機能を整える看護（5） 排泄	細川
6	高齢者の生活機能を整える看護（6） 清潔	細川
7	高齢者の生活機能を整える看護（7） 清潔演習	細川
8	高齢者の生活機能を整える看護（8） 生活リズム	細川
9	高齢者の生活機能を整える看護（9） コミュニケーション セクシュアリティ 社会参加	細川
10	生活・療養の場における看護（1） 高齢者とヘルスプロモーション	細川
11	生活・療養の場における看護（2） 保健医療福祉施設および居住施設における看護	細川
12	生活・療養の場における看護（3） 家族の看護 多職種実践	細川
13	高齢者のリスクマネジメント（1） 医療安全・救命救急	細川
14	高齢者のリスクマネジメント（2） 災害	細川
15	履修認定	細川

科目名	小児看護学方法論Ⅰ		
担当教員	福原 緑		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要☑ 子どもの心とからだの健全な発達を援助するため、成長発達過程を理解し、子ども時代の健康生活の意義や養育のあり方を学ぶ。			
到達目標☑ 1.小児各期の成長・発達の特徴がわかる 2.小児各期の生活過程を支援する方法がわかる 3.小児、その家族との人間関係の成立・発展させる方法が理解できる			
授業の形式・方法☑ 講義 演習			
成績評価の方法・基準 筆記試験（70％）レポート（30％） 不合格者は、筆記試験とし再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論	奈良間 美保	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	小児各期の特徴 新生児	福原
2	小児各期の特徴 乳児期	福原
3	小児各期の特徴 乳児期 日常生活の世話	福原
4	小児各期の特徴 乳児期 遊びの支援・事故防止	福原
5	小児各期の特徴 幼児期 養育および看護	福原
6	小児各期の特徴 幼児期 グループワーク	福原
7	小児各期の特徴 幼児期 グループワーク	福原
8	小児各期の特徴 発表	福原
9	小児各期の特徴 学童期	福原
10	小児各期の特徴 学童期	福原
11	小児各期の特徴 思春期・青年期	福原
12	家族の特徴とアセスメント 子どもにとっての家族とは	福原
13	家族の特徴とアセスメント 家族アセスメント	福原
14	子どもの虐待と看護	福原
15	履修認定	福原

科目名	精神看護学方法論 II		
担当教員	鳴海 繭花 坂井 聖康 三上 あすか		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要☑			
精神障害をもつ人へのケアの基本的な方法、回復を支える治療的アプローチを学ぶ。治療的環境をつくり出すために看護師に求められていることを学ぶ。看護には感情労働の側面があり、メンタルヘルス上の問題を引き起こす可能性があることを知る			
到達目標☑			
1) ケアの原則がわかる 2) ケアの基本的な方法がわかる 3) 患者にとっての回復リカバリーの意味を理解する 4) 治療的環境の条件がわかる 5) 地域で暮らす精神障害者の生活を支援する方法を理解する 6) リエゾン精神看護の役割と活動を知る 7) 感情労働が看護師のメンタルヘルスに及ぼす影響を知る			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験 (100%)			
学生へのメッセージ			
予習・復習をして授業を受けてください、			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
精神看護の基礎	武井麻子	医学書院	
精神看護の展開	武井麻子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	ケアの前提	坂井
2	ケアの原則	坂井
3	ケアの方法	坂井
4	回復を支援する リカバリーのプロセス	鳴海
5	回復を支援する リカバリーを促す環境・方法	鳴海
6	回復を支援する さまざまな回復のためのプログラム	鳴海
7	回復を支援する 回復のためのプログラムの実際	鳴海
8	地域におけるケアと支援 地域における生活支援の方法	鳴海
9	地域におけるケアと支援 職場におけるメンタルヘルスと看護	鳴海
10	地域におけるケアと支援 学校におけるメンタルヘルスと看護	三上 あ
11	リエゾン精神看護	坂井
12	リエゾン精神看護	坂井
13	感情労働としての看護	坂井
14	看護師のメンタルヘルス	坂井
15	履修認定	坂井

診療の補助技術における安全	1 単位 (30 時間)	3 年前期	宗像 祐二	実務経験 ①・無
---------------	--------------	-------	-------	-------------

【授業のねらい】

医療の質と安全の確保に必要な思考と技術について学ぶ。

【目標】

1. 医療事故防止の考え方が理解できる。
2. 医療安全を推進・管理するために必要な能力を説明することができる。
3. リスクマネジメントのプロセスがわかる。
4. 起こりやすい医療事故とその対策を理解する。

単 元	内 容	方法	時間
医療安全とリスクマネジメントの概念	1. 医療事故防止に有用な理論と事故防止対策 2. コミュニケーションエラー防止 3. 医療安全に必要な技能 4. 医療安全管理に関する基本的な考え方 5. リスクマネジメント	講義	4
安全で確実な与薬 事件事例から事故の原因と対策を考える	1. 注射・点滴 1) 消毒薬を誤って静脈注射した事故 2. 内服・外用・麻薬 1) 過剰与薬 2) 時間間違い 3) 重複与薬 4) 患者間違い 5) 与薬量間違い 6) 規格間違い	講義 演習	8
安全なチューブ類の管理 事件事例から事故の原因と対策を考える	1. チューブ・カテーテル類 1) 気管内チューブ・気管カニューレ 2) 静脈ラインの予定外抜去 3) 経鼻胃管 4) 胃瘻カテーテル 5) 胸腔ドレーン 6) 硬膜外カテーテル 7) 膀胱内留置カテーテル	講義 演習	8
医療機器の管理と操作 事件事例から事故の原因と対策を考える	1. ME 機器の特徴と安全対策 2. 生体情報モニターの操作とトラブル対処法 3. 医療機器の安全使用について 1) 人工呼吸器 2) 輸液ポンプ	講義 演習	8
	履修認定		2

【成績評価の方法】

筆記試験

* 不合格者は再試験とし、再評価

教科書	系統看護学講座 統合分野 医学書院 看護の統合と実践[2] 医療安全	参考書	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術
-----	---------------------------------------	-----	------------------------------